

ろくおん 通信

2024年12月1日発行

発行 日本ライトハウス情報文化センター

録音製作係

発行責任者 久保田 文

電話 06-6441-1017

FAX 06-6441-1027

<https://www.lighthouse.or.jp/iccb/>

No.265

今号の内容

- ◎ 校正について ～校正票（表）との向き合い方～ …………… 1ページ
- ◎ もっと知ろう！「ウェブスタジオ・なにわ」（番外編） …………… 2ページ
- ◎ わかる 使える 広がる！ デイジー図書徹底解説（第47回） …………… 5ページ
「注」の読み方

聴いてわかる録音図書をつくるために（第66回）

校正について ～校正票（表）との向き合い方～

録音製作係 内藤流津

前々回のろくおん通信（No. 263号）で、校正に関する記事を掲載したところ、「もう少し詳しく説明して欲しい」、「具体例を示して欲しい」というお声を多くいただきました。

そこで、今月から2～3号にわたり、校正・校正票（表）との向き合い方を考えていきたいと思います。今回は校正票（表）にあがる項目を確認します。

※ 以降、本文中の「校正」とは、当館での全ての校正作業（モニター（1校）、2校、編集、デイジー校正）を指します。

校正票（表）にあがる項目は、大きく以下の4つに分類されます。

（音訳ボランティア養成講習会テキスト - 基礎課程編 - を参照しています）

① 構成面

- ・ 枠アナウンスやデイジー図書凡例が正しく読まれているか
- ・ 当館マニュアル「デイジー図書録音の順序」通りに読まれているか など

② 録音技術面

- ・ 音量・音質
- ・ 雑音
- ・ （録音作業に起因する）“間”の長短、頭切れや音の重複など

③ 音声表現技術面

- ・誤読
- ・発声、発音（読み詰まり、不明瞭な発音など）
- ・アクセント
- ・読みのスピード
- ・言葉のつながり、“間” など

④ 処理技術面

墨字（原本）をそのまま音に変換するだけでは正しく意味が伝わらない言葉・資料が正しく変換されているか

- ・符号類（かっこ類、感嘆符・疑問符など）
- ・字説（同音異義語、略語、造語など）
- ・視覚的資料 など

次号では、これらの項目が校正としてあがってきたときに、音訳者は何を基準に修正する/しないを判断すればよいのかを考えていきます。皆さんもご自分なりに考えてみましょう。



もっと知ろう！「ウェブスタジオ・なにわ」（番外編）

～ボランティアの皆さんから寄せられるお悩みやお困りごとを解決します！～

前号（No. 264号）で「調査」について取り上げたところ、ウェブスタジオ・なにわの下調べ票機能（以下、下調べ票）に関するお問合せ・ご質問をいくつかいただきました。本コーナーでお答えしていきたいと思えます！

Q1. ウェブスタジオ・なにわの下調べ票の使い方を教えてください。

A1. 以下のろくおん通信をご参照ください！

- ・ろくおん通信 No. 240号：もっと知ろう！「ウェブスタジオ・なにわ」（第28回）
→ 下調べ票機能の使い方
- ・ろくおん通信 No. 242号：もっと知ろう！「ウェブスタジオ・なにわ」（第29回）
→ 「下調べ票編集」画面で入力できる文字について

※ ろくおん通信は当館ホームページ (<https://www.lighthouse.or.jp/iccb/>) から閲覧できます。トップページの「刊行物」から「ろくおん通信」にお進みください。

Q 2. 下読みの段階で下調べ票を作成したいです。音訳前の打ち合わせはこれからですが、どうしたらよいですか。

A 2. 職員にお知らせください。

ウェブスタジオ・なにわの下調べ票は（音訳の）製作依頼受信後にしか作成できません。本来、係からの（音訳）製作依頼送信は、音訳処理表提出後（打ち合わせ終了後）ですが、下調べ票作成のために必要な場合は、先にお送りします。

ただし、音訳処理表の提出時期（打ち合わせ時期）が未定の場合は送信することができませんのでご了承ください。

Q 3. 出典欄に参照したホームページのURLを貼り付けたところ、文字化けしてしまい、規定の文字数を大幅に超えてしまいました。どのように記載すればよいでしょうか。

A 3. URLに日本語が含まれている場合、貼り付けると「%E6%97%A5%E6%9C%AC%…」というように文字化けしてしまいます。

文字化けの部分を含めてウェブブラウザのアドレスバーに貼り付ければ、ページにアクセスすることは可能ですが、規定字数（全角100文字以内）を超えることが多いのです。

この場合は、以下のいずれかの方法で下調べ票を送信してください。

※ 規定字数以内であれば、以下の方法を取る必要はありません。

方法1：「ウェブリオ」、「wikipedia」、「youtube」など参照したサイト名を記載する

→ 検索結果に直接移動できるURLが無くても、参照したサイト名がわかれば、確認しやすくなります。個人サイトの場合でも、トップページなどに移動して探してみてください。

また、youtubeなどの動画サイトを参照した時は、動画名や再生時間などの情報も記載しておくとう便利です。

（例：youtube ニポラチャンネル 第1回 iPhoneの基本設定 3分22秒あたり など）

方法2：文字化け部分を日本語に直す

→ 例えば、ウェブリオで「音訳」を検索した時、該当ページのアドレスバーには、『https://ejje.weblio.jp/content/音訳』と表示されています。

このURLをコピーし、下調べ票の出典欄に貼り付けると、“音訳”の部分が文字化け、『https://ejje.weblio.jp/content/%E9%9F%B3%E8%A8%B3』という表示に変わります。この文字化け部分を“音訳”と打ち変えると、文字数を節約しながらURLを全文記載することができます（記号によるエラーが起きる確立も低くなります）。

ただし、多くの日本語が含まれている（文字化けしている箇所がとても多いまたは長い）URLの場合は打ち変えが大変です。その場合は方法1を取ってください。

【文字化け部分を日本語に直すコツ】

文字化け部分が長いと、打ち換え作業も大変です。そこで、URLをコピーするときのコツを2つご紹介します。

※ 上記と同じ、『ウェブリオで「音訳」を検索した時』を例としています。

<コツ1>

- ① URLの日本語部分より前をコピーし、貼り付ける。
→ 「https://ejje.weblio.jp/content/」までをコピーし、貼り付ける
- ② 貼り付けたアドレスの後ろに手打ちで単語（日本語）を入力する。
→ 最後のスラッシュに続けて、“音訳”と入力する

<コツ2>

- ① URLの最初の文字以外を選択・コピーし、貼り付ける。
→ 『https://ejje.weblio.jp/content/音訳』（最初の文字“h”以外）をコピーし、貼り付ける
- ② 貼り付けたURLの先頭に、最初の文字を手入力する。
→ 『https://~』の先頭に、“h”を手入力する

※ 文字化けに関しては、ろくおん通信 No. 243 号でも解説しています。

今回使用した検索例は、こちらの号と同じものですので、あせてご参照ください。

Q4. 下調べ票への打ち込みが大変です。

A4. そうですよね……。ご自宅で下調べをして、下調べ票を来館して入力するという方は特に大変な作業になるかと思います。

ですが、下調べ票には「原本語句検索」という、他の方と調査結果を共有できる機能があります。他の方が「原本語句検索」をした時にヒットする確率を上げるためにも、ぜひ、下調べ票への入力にご協力ください（「原本語句検索」については、ろくおん通信 No. 240 号参照）。

Q5. 校正者、編集者も下調べ票に書き込めることを始めて知りました！どのような時に書き込むとよいのでしょうか？

A5. 例えば、以下のような場合が考えられます。

- ・音訳者の下調べ票に記載が無く、校正者、編集者が新しく調べた。
- ・『状態』欄が『調査依頼』になっている項目について、調査がついた。
- ・推測読みしている項目について、より確かな出典を見つけることができた。など

音訳者1人だけで調査することは大変な作業ですし、資料にも限りがあります。校正者、編集者の方が調べた内容についても、広く出し合うことでよい製作につながります。共同作業ですので、どんどん下調べ票に追記、変更してください。

Q6. 下調べ票一覧に校正、編集を担当している図書名がありません。

A6. 音訳者が下調べ票を作成していない場合、一覧には表示されません。

校正者、編集者は新規で下調べ票を作成することは出来ません。音訳者に連絡を取り、作成してもらってください。

また、調査事項があるにも関わらず、下調べ票一覧に表示されていない（下調べ票が届いていない）場合も、音訳者に確認を取ってください。

音訳者の方へ

校正者、編集者から下調べ票作成依頼があったものの、記載する内容が無い場合は下調べ票の枠だけ作成してください。

新規下調べ票作成から該当図書を選択し、下調べ行には何も追加しない状態で『下調べ票保存』ボタンを押すと、枠だけ作成することができます（新規下調べ票の作成方法はろくおん通信 No. 240 号を参照してください）。

下調べ票をどんどん活用していただけると嬉しいです。

-----前号 (No. 264 号) の訂正-----

前号 (No. 264 号) で紹介いたしました、各作業者が下調べ票に入力した際に表示される色について、一部誤りがございました。正しくは、音訳者 → “黒”、校正者 → “緑”、編集者 → “ピンク”、録音製作係 → “赤” です。

大変申し訳ございませんでした。



わかる 使える 広がる！ デージー図書徹底解説(第47回)

このコーナーでは、図書の特徴に合ったデージー校正のポイントをQ&A形式で紹介しています。今回から、ご質問の多い「注」の読み方について考えていきたいと思います。

なお、「注」の基本的な読み方については、当館のマニュアル『デージー図書録音の順序』5ページに、また、章末、巻末にまとめて掲載されている「注」を本文中に読み込んだために、掲載されているページが白紙扱いとなってしまった場合のコメント例については、『デージー図書編集のルール』6ページ～7ページに記載があります。

「注」の入れ方（読み込み方）

Q1. 「注」の内容をどこに入れるのが良いのか（どこで読むとわかりやすいのか）とても迷います。（音訳者・校正者から）

A1-1. まず、「注」の種類ですが、大きく分けて以下の2タイプがあります。
～利用者さんからの、「注」についてのお話を参考にさせていただきました～

タイプA：

- ・聞き手の理解を助けるもの
→ 言葉や記述内容に関する解説や補足、古文の訳文、外国語の訳文など
(「注」の付いた言葉の直後に内容を聞かないと、本文の内容がわからないもの)
- ・「注」の文章が短く、本文中に読み込んでもさほど煩雑にならないもの。

タイプB：

- ・すぐに参照しなくても、本文の理解にあまり差し支えないもの
→ 出典・引用・参考文献など、聞き手が望むときに参照するもの
- ・本文中に読み込むとかえって理解を妨げるおそれがあるもの
→ 「注」の文章が長い、「注」の数が多いなど

※ タイプBの注は、グループチェックが付いていると利用に便利なようです。
グループチェックについては次回以降に取り上げます。

A1-2. 次に、読む場所ですが、主に以下の場所が考えられます。

- ① 「注」の付いた言葉の直後
- ② 「注」の付いた言葉を含む文の最後(文末)
- ③ 「注」の付いた言葉を含む段落の終わり
- ④ 項目末や章末(複数の注をまとめて読むことが多い)

【ポイント1】

タイプAの「注」かタイプBの「注」かによって判断します。

タイプAの「注」 → 近いところで読み込む方が望ましい。①～③の方法(推奨：①・②)。

タイプBの「注」 → ③か④の方法。

「注」と本文を行き来しながら聞くことは大変です。「注」の長さや文の流れなどを考慮し、できるだけ聞きやすい位置を選びましょう。

【ポイント2】

「注」の内容がどの言葉(文)に対するものなのかがわかるように読まなければなりません。

- ・「注」の付いた言葉(文)から離れた場所で読む場合(②～④の方法)
- ・複数の「注」をまとめて読む場合

などは特に注意が必要です。

「注」の付いた言葉(文)を添えて読む、「注」に番号を付けるなどの工夫をしましょう。

Q2. 「注」の入れ方は統一する必要がありますか？（音訳者・校正者・編集者から）

A2. 統一の必要はありません。「内容をスムーズに理解できるか」をポイントに、あるものは言葉の直後、あるものは文末、あるものは章末という風に、注ごとに適切な場所を判断します。また、短い補足などの場合、『カッコ・・・～ 注の内容 ～・・・トジ』として入れる方法もあります。

様々な表記の「注」の読み方

Q3. 本文中に、(注～～) や (～～) のようにカッコ書きで書かれた注は、どのように読むといいのでしょうか？（音訳者から）

A3. 原本通り、『カッコ 注～～～トジ』、『カッコ～～～トジ』と読むのが伝わりやすいです。ただ、(～～) のケースでは、カッコ・トジ を読まない方が簡潔で伝わりやすいこともありますので、前後の文章のつながりを考え、注意深く判断しましょう。

「同」「前掲書」「前出」とある場合や、同じ「注」が複数出てくる場合の読み方

Q4. 「注」が複数あり、2回目以降には「同」「前掲書」「前出」などと書かれている場合の読み方を教えてください。（音訳者・校正者・編集者から）

A4. 2回目以降は、1回目と同じ書名（内容）を読みます。更に、『同○○○』『前掲書□□□』『前出△△△』という風に読むと、「ああ、前に出てきた文献と同じだな」などと理解の助けになり、より納得できます。（ただ、必ずしもこの読み方でなければならないというわけではなく、1回目と同じ書名（内容）を読むだけで伝わる場合もあります。）

Q5. 同じ「注」が複数の場所で使われている場合の読み方を教えてください。（音訳者・校正者・編集者から）

A5. 原則、その都度同じ「注」の内容を読みますが、続いている場合は、1回だけの方が煩雑にならず、聞きやすいこともあります。その都度判断して決めましょう。

「注」の種類によって、利用のし方（注の内容を知りたいタイミング）は異なります。どのように読むと聞きやすいのか、下読みの際に「一読者として墨字で読書するときにはどのタイミングで「注」（「注」の内容）を見るか」を考えましょう。

※ 編集上の注意点やグループチェック、コメント例については、次回以降に取り上げます。



館からのお知らせ

★ 12月の休館・休室について

12月6日（金）、7日（土）：日本ライトハウス展*

*12月6日（金）11時～16時、7日（土）10時～16時に視覚障害者用具・機器展「日本ライトハウス展」を開催いたします。会場は天満橋のOMMビル2階・Cホール（展示会場）とDホール（特別ステージ、あん摩・マッサージ体験コーナー）です。入場無料、どなた様もご入場いただけますので、ぜひご来場ください。詳細は当館ホームページの特設ページをご覧ください（<https://www.lighthouse.or.jp/iccb/informations/nlt2024/>）。

[特別ステージ タイムテーブル]

<12月6日（金）>

- ・13時～13時45分：「マジックショー&触るマジック体験」 マジシャン万博 氏
- ・14時30分～15時15分：「いつも近くに iPhone☆ 楽しさと便利さを手のひらに！」

<12月7日（土）>

- ・11時30分～12時15分：「デイジー図書って何が聴けるん？
小説だけじゃない！耳で楽しむ録音図書～聴き方いろいろ」
- ・13時～13時45分：「パラスポーツの魅力」
パリパラリンピック柔道 金メダリスト 瀬戸 勇次郎 氏
- ・14時30分～15時15分：「すごいぞ iPhone！ まだまだ進化は止まらない！」

★ 年末年始～1月の休館・休室について

12月27日（金）：機器整備のため、ボランティア活動休止

12月28日（土）～1月6日（月）：年末年始全館休館

1月11日（土）：（月：成人の日）の振替

※12月27日（金）～1月6日（月）は6・7階ともに休室いたします。

★ 「Zoom でなんでも相談」 12～1月の開催予定

以下の日の14～16時に開催予定です（16時以前に終了する可能性あり）。

12月11日（水）、12日（木）、13日（金）

25日（水）、26日（木）

1月 9日（木）、10日（金）

22日（水）、23日（木）、24日（金）